

特定非営利活動法人 Joint Flow 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 Joint Flow という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都八王子市明神町三丁目20番5号エイトビル3階に置く。

(目的)

第3条 この法人は、青少年を中心とした市民に対して陸上競技を中心としたスポーツの普及活動及びパソコン・プログラミング教室を行うことにより、青少年のスポーツを通じた社会性や心身の健康の向上と、ITリテラシーの向上を図り、ひいては健全で文化的な市民社会の醸成に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 子どもの健全育成を図る活動
- (5) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (6) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 陸上競技を中心とした青少年向けスポーツ教室事業
- (2) しょうがいをもつ青少年向け陸上パラスポーツ教室事業
- (3) 青少年向けパソコン・プログラミング教室事業

2 この法人は、次のその他の事業を行う。

- (1) 小中高生向け学習塾事業

3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その利益は、

第1項に掲げる事業に充てるものとする。

第2章 会 員

(種 別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法(以下「法」という。)上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体
- (2) 賛助会員 この法人の目的に賛同し賛助するために入会した個人及び団体

(入 会)

第7条 会員の入会について、特に条件を定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、第2項のものの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失踪宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき

(退 会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款に違反したとき。
 - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

(種別及び定数)

第12条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事3人以上
 - (2) 監事1人以上
- 2 理事のうち1人を理事長とし、1人以上2人以内を副理事長とする。

(選任等)

第13条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは3親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び3親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることにはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第14条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 理事長以外の理事は、法人の業務について、この法人を代表しない。
- 3 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、理事長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。
- 4 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会又は理事長の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 5 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には、総会を招集すること。

(5) 理事の業務遂行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べ、又は理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第15条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 前2項の規定にかかわらず、任期満了前に、総会において後任の役員が選任された場合は、当該総会が終結するまでを任期とする。また、任期満了後、後任の役員が選任されていない場合には、任期の末日後最初の総会が終結するまでその任期を伸長する。

4 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第16条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第17条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(報酬等)

第18条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第4章 会 議

(種 別)

第19条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第20条 総会は、正社員をもって構成する。

(総会の権能)

第21条 総会は、以下の事項について議決する。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 会員の除名
- (4) 事業計画及び予算並びにその変更
- (5) 事業報告及び決算
- (6) 役員を選任及び解任
- (7) 役員の職務及び報酬
- (8) 入会金及び会費の額
- (9) 資産の管理の方法
- (10) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第47条において同じ）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (11) 解散における残余財産の帰属
- (12) 事務局の組織及び運営
- (13) その他運営に関する重要事項

(総会の開催)

第22条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第14条第5項第4号の規定に基づいて招集するとき。

(総会の招集)

第23条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(総会の議長)

第24条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

(総会の定足数)

第25条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することができない。

(総会の議決)

第26条 総会における議決事項は、第23条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、緊急の場合については、総会出席者の2分の1以上の同意により議題とすることができる。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 理事又は正会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(総会での表決権等)

第27条 各正会員の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面若しくは電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条及び次条第1項、第48条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第28条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所

(2) 正会員総数及び出席者数（書面若しくは電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。

3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録による同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容

(2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称

(3) 総会の決議があったものとみなされた日及び正会員総数

(4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

(理事会の構成)

第29条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第30条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

(1) 総会に付議すべき事項

(2) 総会の議決した事項の執行に関する事項

(3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第31条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

(1) 理事長が必要と認めたとき。

(2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(3) 監事から第14条第5項第5号の規定に基づき招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第32条 理事会は理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2号及び第3号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に理事会を招集しなければならない。

3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電

磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第33条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(理事会の議決)

第34条 理事会における議決事項は、第32条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会での表決権等)

第35条 各理事の表決権は、平等なものとする。

2 やむを得ない理由のために理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。

3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。

4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第36条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

(1) 日時及び場所

(2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名(書面表決者にあつては、その旨を付記すること。)

(3) 審議事項

(4) 議事の経過の概要及び議決の結果

(5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人が記名押印又は署名しなければならない。

第5章 資 産

(資産の構成)

第37条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄附金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(資産の区分)

第38条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産、その他の事業に関する資産の2種とする。

(資産の管理)

第39条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第6章 会 計

(会計の原則)

第40条 この法人の会計は、法第27号各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

(会計の区分)

第41条 この法人の会計は、特定非営利活動に係る事業会計、その他の事業会計の2種とする。

(事業年度)

第42条 この法人の事業年度は、毎月4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び予算)

第43条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度、理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第44条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第45条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第46条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金が生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第47条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第48条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ法第25条第3項に規定する次に掲げる事項については、所轄庁の認証を得なければならない。

- (1) 目的
- (2) 名称
- (3) その行う特定非営利活動の種類及び当該特定非営利活動に係る事業の種類
- (4) 主たる事務所及びその他の事務所の所在地（所轄庁の変更を伴うものに限る。）
- (5) 社員の資格の得喪に関する事項
- (6) 役員に関する事項（役員の定数に係るものを除く。）
- (7) 会議に関する事項
- (8) その他の事業を行う場合には、その種類その他当該その他の事業に関する事項
- (9) 解散に関する事項（残余財産の帰属すべき者に係るものに限る。）
- (10) 定款の変更に関する事項

2 この法人の定款を変更（前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く。）したときは、所轄庁に届け出なければならない。

（解散）

第49条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- （1）総会の決議
- （2）目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- （3）正会員の欠亡
- （4）合併
- （5）破産手続開始の決定
- （6）所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の議決を得なければならない。

3 第1項第2号の事由によりこの法人が解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

（残余財産の帰属）

第50条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、総会において議決した者に譲渡するものとする。

（合併）

第51条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

（公告の方法）

第52条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページにおいて行う。

第9章 事務局

(事務局の設置)

第53条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置することができる。

2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置くことができる。

(職員の任免)

第54条 事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

(組織及び運営)

第55条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第10章 雑則

(細則)

第56条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附 則

- 1 この定款は、この法人の設立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

理事長	川口 比佐志
副理事長	西村 英剛
理事	塚本 稜司
理事	古永 智子
理事	大澤 蘭
監事	川口 篤

- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第15条第1項の規定にかかわらず、この法人の設立の日から令和7年5月31日とする。
- 4 この法人の設立当初の事業年度は、第42条の規定にかかわらず、この法人の設立の日から令和7年3月31日までとする。
- 5 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第43条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。
- 6 この法人の設立当初の入会金及び年会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

(1) 入会金 正会員（個人・団体）1,000円 賛助会員（個人・団体） 0円

(2) 年会費 正会員（個人・団体）3,000円 賛助会員（個人・団体）1口3,000円

(1口以上)

役員名簿 （役員名簿及び役員のうち報酬を受ける者の名簿）

特定非営利活動法人Joint Flow

1 確認事項（法第20条及び第21条を確認の上、チェックを入れてください。）

- 以下の役員には、欠格事由者が含まれません。（法第20条関係）
各役員について、親族の規定に違反していません。（法第21条関係）

2 役員一覧

	役名 (どちらかに○)	(フリガナ)		報酬の有無 (どちらかに○)	役職名等
		氏名			
1	<input checked="" type="checkbox"/> 理事・ <input checked="" type="checkbox"/> 監事	カワグチ ヒサシ		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	理事長
		川口 比佐志			
2	<input checked="" type="checkbox"/> 理事・ <input checked="" type="checkbox"/> 監事	ニシムラ ヒデタカ		<input checked="" type="checkbox"/> 有・ <input type="checkbox"/> 無	副理事長
		西村 英剛			
3	<input checked="" type="checkbox"/> 理事・ <input checked="" type="checkbox"/> 監事	ツカモト リョウジ		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	理事
		塚本 稜司			
4	<input checked="" type="checkbox"/> 理事・ <input checked="" type="checkbox"/> 監事	フルエ トモコ		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	理事
		古永 智子			
5	<input checked="" type="checkbox"/> 理事・ <input checked="" type="checkbox"/> 監事	オオサワ ラン		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	理事
		大澤 蘭			
6	理事・ <input checked="" type="checkbox"/> 監事	カワグチ アツシ		有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	監事
		川口 篤			
7	理事・監事			有・無	
8	理事・監事			有・無	
9	理事・監事			有・無	

令和6年度

事業計画書

特定非営利活動法人 Joint Flow

1 事業実施の方針

令和7年度は、八王子市を中心とした東京都多摩地区を中心に事業を展開する。

東京都多摩地区に居住通学する小中高学生及び身体や精神しょうがいを持つ小中高生を対象とした陸上競技教室及び青少年向けプログラミング教室を定期的を開催する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 10,000 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
陸上競技を中少年向けとしたスポーツ教室事業	小中高生を対象とした青と中心開催した陸上競技教室を青少年の心身の健全な発展に貢献する。	毎週月、水～日	多摩地区の陸上競技場	8名	多摩地区に居住する小中高生	250名	8,000
		合宿として、夏と春の2回開催	群馬県千葉県	4名	多摩地区に居住する小中高生	30名×2回	1,000
しょうがいを向けたスポーツ教室事業	しょうがいをもちた青少年への指導を陸上スポーツを通じて、しょうがいを克服するのを目的とする。	毎週月、水～日	多摩地区の陸上競技場	8名	しょうがいをもちた多摩地区に居住する小中高生	5名	500
青少年向けプログラミング教室事業	小中高生を対象とした青少年向けパソコン・プログラミング教室を開催し、ITリテラシー向上を目指す。	毎週火・日	法人事務所	1名	多摩地区に居住する小中高生	20名	500

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 300 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
小中高生向け学習塾事業	小中高生を対象とした学習塾を実施する。	毎週月曜日	法人事務所	3人	300

令和7年度

事業計画書

特定非営利活動法人 Joint Flow

1 事業実施の方針

令和7年度も引き続き、八王子市を中心とした東京都多摩地区を中心に事業を展開する。

東京都多摩地区に居住通学する小中高学生及び身体や精神しょうがいを持つ小中高生を対象とした陸上競技教室及び青少年向けプログラミング教室の定期的な開催を実施する。

前年度よりも事業の拡大を図り、より一層青少年の健全な育成に取り組んでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【 13,000 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
陸上競技を青少年向けスポーツ教室事業	小中高生を対象とした青少年向け陸上競技教室を開催し、青少年の心身の健全な発展に貢献する。	毎週月、水～日	多摩地区の陸上競技場	10名	多摩地区に居住通学する小中高生	300名	10,000
		合宿として、夏と春の2回開催	群馬県千葉県	6名	多摩地区に居住通学する小中高生	50名×2回	1,200
しょうがいをもつ青少年向け陸上スポーツ教室事業	しょうがいをもつ青少年の陸上スポーツを通じて、しょうがいのQOL向上を目指す。	毎週月、水～日	多摩地区の陸上競技場	10名	しょうがいをもち多摩地区に居住通学する小中高生	10名	1,000
青少年向けパソコン・プログラミング教室事業	小中高生を対象とした青少年向けパソコン・プログラミング教室を開催し、ITリテラシー向上を目指す。	毎週火・日	法人事務所	1名	多摩地区に居住通学する小中高生	30名	800

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 500 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)
小中高生向け学習塾事業	小中高生を対象とした学習塾を実施する。	毎週月曜日	法人事務所	3人	500

令和6年度 活動予算書 (その他事業がある場合)

特定非営利活動法人Joint Flow

(単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
【A】 経常収益					
1 受取会費		794,000		0	794,000
正会員受取会費	44,000				
賛助会員受取会費	750,000				
2 受取寄附金		200,000		0	200,000
受取寄附金	200,000				
施設等受入評価益	0				
3 受取助成金等		0		0	0
受取補助金	0				
4 事業収益		12,000,000		360,000	12,360,000
陸上競技を中心とした青少年向けスポーツ教室事業 事業収益	10,800,000				
しょうがいをもつ青少年向け陸上バラスポーツ教室事業 事業収益	600,000				
青少年向けパソコン・プログラミング教室 事業収益	600,000		360,000		
小中高生向け学習塾事業					
5 その他の収益		0		0	0
受取利息		100			
経常収益計		12,994,000		360,000	13,354,000
【B】 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費		9,480,000		222,000	9,702,000
給料手当	9,000,000		210,000		
役員報酬	240,000		0		
退職給付費用	120,000		0		
福利厚生費	120,000		12,000		
(2) その他経費		520,000		78,000	598,000
会議費	200,000		30,000		
旅費交通費	200,000		18,000		
施設等評価費用	0		0		
減価償却費	0		0		
印刷製本費	120,000		30,000		
事業費計		10,000,000		300,000	10,300,000
2 管理費					
(1) 人件費		192,000		0	192,000
役員報酬	0				
給料手当	120,000				
退職給付費用	12,000				
福利厚生費	60,000				
(2) その他経費		940,000		24,000	964,000
消耗品費	120,000		12,000		
水道光熱費	120,000		12,000		
通信運搬費	120,000				
地代家賃	360,000				
旅費交通費	120,000				
減価償却費	100,000				
管理費計		1,132,000		24,000	1,156,000
経常費用計		11,132,000		324,000	11,456,000
当期経常増減額 【A】 - 【B】 ……①		1,862,000		36,000	1,898,000
【C】 経常外収益					
固定資産売却益	0		0		
過年度損益修正益	0		0		
経常外収益計		0		0	0
【D】 経常外費用					
固定資産売却損	0		0		
災害損失	0		0		
過年度損益修正損	0		0		
経常外費用計		0		0	0
当期経常外増減額 【C】 - 【D】 ……②		0		0	0
経理区分振替額 ……③		36,000		-36,000	0
税引前当期正味財産増減額 ①+②+③ ……④		1,898,000		0	1,898,000
法人税、住民税及び事業税 ……⑤					70,000
設立時正味財産額 ……⑥					300,000
次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥					2,128,000

令和7年度 活動予算書 (その他事業がある場合)

特定非営利活動法人Joint Flow

(単位:円)

科目	特定非営利活動に係る事業		その他事業		合計
	金額	小計・合計	金額	小計・合計	
[A] 経常収益					
1 受取会費		944,000		0	944,000
正会員受取会費	44,000				
賛助会員受取会費	900,000				
2 受取寄附金		300,000		0	300,000
受取寄附金	300,000				
施設等受入評価益	0				
3 受取助成金等		0		0	0
受取補助金	0				
4 事業収益		15,600,000		600,000	16,200,000
陸上競技を中心とした青少年向けスポーツ教室事業 事業収益	13,440,000				
しょうがいをもつ青少年向け陸上バラスポーツ教室事業 事業収益	1,200,000				
青少年向けパソコン・プログラミング教室 事業収益	960,000				
小中高生向け学習塾事業			600,000		
5 その他の収益		0		0	0
受取利息		500			
経常収益計		16,844,000		600,000	17,444,000
[B] 経常費用					
1 事業費					
(1) 人件費		12,230,000		390,000	12,620,000
給料手当	11,750,000		360,000		
役員報酬	240,000		0		
退職給付費用	120,000		0		
福利厚生費	120,000		30,000		
(2) その他経費		770,000		110,000	880,000
会議費	350,000		30,000		
旅費交通費	300,000		30,000		
施設等評価費用	0				
減価償却費	0				
印刷製本費	120,000		50,000		
事業費計		13,000,000		500,000	13,500,000
2 管理費					
(1) 人件費		512,000		0	512,000
役員報酬	0				
給料手当	440,000				
退職給付費用	12,000				
福利厚生費	60,000				
(2) その他経費		1,600,000		30,000	1,630,000
消耗品費	300,000		15,000		
水道光熱費	300,000		15,000		
通信運搬費	200,000				
地代家賃	500,000				
旅費交通費	200,000				
減価償却費	100,000				
管理費計		2,112,000		30,000	2,142,000
経常費用計		15,112,000		530,000	15,642,000
当期経常増減額 [A] - [B] . . . ①		1,732,000		70,000	1,802,000
[C] 経常外収益					
固定資産売却益	0		0		
過年度損益修正益	0		0		
経常外収益計		0		0	0
[D] 経常外費用					
固定資産売却損	0		0		
災害損失	0		0		
過年度損益修正損	0		0		
経常外費用計		0		0	0
当期経常外増減額 [C] - [D] . . . ②		0		0	0
経理区分振替額 . . . ③		70,000		-70,000	
税引前当期正味財産増減額 ①+②+③ . . . ④		1,802,000		0	1,802,000
法人税、住民税及び事業税 . . . ⑤					70,000
前期繰越正味財産額 . . . ⑥					2,128,000
次期繰越正味財産額 ④-⑤+⑥					3,860,000

特定非営利活動法人Joint Flow 設立趣旨書

青少年の心身の健全な発達や社会性の向上には、小学校や中学校での公教育のみならず、地域社会を受け皿とした教育の場が必要です。しかしながら、都市化や核家族化の進んだ現代では、地域社会の形骸化が進み、そういった教育の場を確保することは難しいのが実情です。また近年のいわゆるコロナ禍以降、特に都市部においては、人と人とのつながりは更に希薄なものとなり、小学校や中学校以外での地域社会での青少年の交流する場の存在が今まで以上に求められています。

私たちは、小学生や中学生を中心とした青少年や社会人を対象に、陸上競技を中心としたスポーツ教室を開催することにより、青少年の心身の健全な発達や社会性の向上を促すとともに、地域社会での教育の場や地域住民の交流の場を作りたいと考えています。

さらには、しょうがいをもつ青少年に対するパラスポーツの教授にも取り組んでいきたいと考えています。

また、学生を対象としたパソコン・プログラム教室を開催することで、青少年のITリテラシーの向上に寄与したいと考えています。私たちのこれらの活動により、青少年の健全な育成や豊かな地域社会の形成に貢献できるものと考えています。

私たちはこれまで、大学等の教育機関で体育学や教育学、情報科学を学んだ者が自発的に集い、任意団体として活動を行って参りました。しかし、任意団体のままでは、運営資金を預け入れる銀行口座の開設や担い手人材の確保、小中学校や公営体育施設といった公共施設での運営会場の確保といった面で限界があり、NPO法人の設立を発起するに至りました。

特定非営利活動法人となった暁には、関連法令を遵守した透明性の高い法人運営を行い、本法人の活動を通じて、よりよい地域社会の発展に貢献していく所存です。

申請に至るまでの経緯

平成30年4月 任意団体「Joint Flow Athletic Club」を発足し、八王子市を中心に活動開始

令和5年9月 特定非営利活動法人Joint Flowの設立を有志で確認

令和6年3月 特定非営利活動法人Joint Flowの設立総会開催

令和6年3月6日

設立代表者

氏名

川口 比佐志